

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

復興への光 「建学の精神」具現化に向けて

2012年を迎える宮田侑理事長から新年の挨拶とともに、朝日大学の今年の基本方針が述べられた。

「建学の精神」の継承と具現化に全教職員一致して邁進しようというので、地道にこれを進めていくことこそが「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりの根幹であるとしている。また、大友克之学長、森下伊三男副学長並びに倉知正和副学長からも、年頭所感がそれぞれ寄せられた。



沖縄県人会「エイサー」で心はひとつにつながった（第41回朝日祭）

GREETING



理事長 宮田 倖

「建学の精神」に基づく人材育成

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、わが国にとって未来からの過酷な挑戦にどう応えるか、まさに国家、国民の「危機管理能力」が問われ続けた1年でありました。3月11日に発生した想定外と言える規模の東日本大震災、この震災によりもたらされた福島第一原発事故による放射能汚染被害はスリーマイルやチエルノブイリを他人事のように思っていた多くの国民に痛烈な打撃を与えました。夏を迎え、今度は台風による豪雨被害、原発停止による電力供給不足、そして秋になり、海外発の試練も続きました。タイの洪水による現地日本企業の浸水被害、さらには欧州の財政危機・金融不安に伴う急激な円高等々、いずれも日本の社会・経済に深刻な影響を与えることとなりました。こうした相次ぐ厄災に対し、日本国民は、ひたむきに、震災や災害からの復興へ向け、また経済の早期回復に向けて、着実に歩を進めています。こうした日本国民の、全国民が一体となって危機に立ち向かう姿は、世界中に感動をもたらしています。

本学は、東日本大震災に際して、被災した学生の学費減免等の経済的支援及び精神的ケア、被災地への看護師の派遣、放射能汚染地域への放射線スクリーニング要員の派遣、さらには復旧、復興に関する公開講座の開催など、社会貢献活動に全力を挙げて努めてまいりました。

一方、こうした状況下においても本学は、高等教育機関としての使命と責務を自覚し、また、次世代を担う若者の夢の実現のため、「建学の精神」に基づき、教育の質の向上を図るとともに、多様なニーズに対応できる有為な人材の育成を着実に行っていかなければなりません。自然災害

や経済危機など未来からの挑戦に立ち向かうのは、巨大なコンピュータや最先端の機器ではなく、「人」であります。世の中に資する人材育成は本学の使命であります。そのために、各学部等のディプロマポリシー（学位授与方針）・カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）・アドミッションポリシー（入学者受入方針）に基づく学士力の強化に引き続き努めてまいります。法学部・経営学部においては、学生の進路目標や社会・時代の要請に応じたカリキュラム改革により、社会人として必要な基礎的能力を身につけた、企業から求められる人材の育成を図ってまいります。歯学部においては、学部教育、歯科医師臨床研修及び卒後教育（PDI、CE）との体系化をさらに図っていくことで、高度な臨床能力を身につけ、社会から信頼される人間性豊かな歯科医師の養成に努めてまいります。

今年は、岐阜県において1965年（昭和40年）以来、2度目となる「ぎふ清流国体」が開催されます。本学体育会においては、国体開催に向けてさまざまな活動を通じて地域貢献を行うことにより、本学教育の基本である文武両道の確立を図るとともに、法令遵守の徹底や人格形成のための教育にも力を入れてまいります。

本学の建学の精神は、「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間を育成」することにあります。国際性、社会性そして人間的知性を身につけた本学卒業生が、確実な「学士力」を身につけ、社会から評価され、国際社会で活躍することを信じています。

本年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

魅力ある大学、選ばれる大学をめざし

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、東日本大震災や台風12号による災害、タイ王国における大洪水などがあり、また、ギリシャなどで経済不安やイギリス・アメリカでの大規模デモなど社会的な混乱もありました。一方で、なでしこジャパンのFIFA女子ワールドカップでの初優勝など明るい話題もありました。本年も皆様にとって良い年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、本学文系学部において、法学部では昨年4月にカリキュラムが改正され、また、経営学部では、本年4月に情報管理学科が経営情報学科に名称変更され、更に、現在カリキュラムの改正作業が進められております。これらの一連の流れは、社会環境が大きく変わり、大学と地域社会と

が更に密接な関わりを持つようになった状況下で、大学教育に対する期待に応えようとするものです。建学の精神の具現化における、教職員が学生一人ひとりをきめ細かく指導し、社会で活躍できる人材を育てること、学生の将来の夢の実現に向けて様々なサポートをしていくことが、「魅力ある大学」そして「選ばれる大学」に結びついていくものと考えております。

本年も「現状維持は後退」をモットーに、朝日大学の益々の発展をめざし、皆様のご理解とご支援を賜り、より一層の努力をしていく所存です。本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。



副学長 森下 伊三男

復興への疾走

新年あけましておめでとうございます。

ここに謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、今年こそ皆様方にとりまして素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年わが国は東日本大震災という未曾有の国難に襲われました。東北地方のみならず多くの国民の生活が文字どおり激震に見舞われました。およそ2万人の方が死亡、行方不明となり、今なお多くの方々が避難生活を強いられています。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族ならびに被害を受けられた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。朝日大学でも震災直後から、医療支援や被災地出身学生への援助、募金活動、放射線量測定など、学生と教職員が現在に至るまで継続的なサポートを行っています。あれから10ヶ月が経ちましたが、津波に呑み込まれた街々の復旧は未だ道遠しというところです。



学長 大友 克之

自然災害のみならず、経済面でもまた大きな嵐に遭遇いたしました。欧州の経済危機と世界同時不況、そして強烈な円高と厳しい外部環境下にあります。新卒学生の就職環境も決して好転したとはいえません。

しかしこんな中でも、いやこんな時だからこそ学生諸君がこの大きな悲しみと被災者への思いを忘ることなく、本学が提供する実学教育を通じて知識と技能を身につけ、専門的分野において明日の日本の復興の担い手となることを願ってやみません。朝日大学は高等教育機関としての使命を自覚し、今年も教育に全力を挙げて取り組んでまいります。2012年をわが国の復興元年とするために。

教育力、研究力、臨床力をみがく

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げますと共に、本年も皆様にとって素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年の3月11日に発生した国内観測史上最大の地震と津波そして東京電力福島第一原発の事故は、地域の人々の暮らしを破壊し、日本中を不安に陥れました。地震と津波はがれきの山を残し、漏れた放射性物質との苦闘はいまだに続いており、遅々として進まない被災地の一日も早い復興、復旧を日本中が願っています。また、世界各地で発生した地震や洪水による災害、ギリシャに端を発した欧州信用不安の拡大、中東諸国の政情不安が続いている中、日本経済の好転もまだまだ遠いようです。

このような暗いニュースばかり目につく昨年ではありましたが、本学では、社会の要請する“学士力”を備えた学生を育成するために必要不可欠である教育の質の向上をはかり、数多くの教育改革が実行されてきました。歯学部では、優秀な高校生や若者に歯学教育を受ける機会を幅広く提供するために断行された大幅な学費の減額が、いよいよ本格的に浸透し、優れた受験生の増加となって現れてきております。こうした受験生の増加は、歯学部全体の活性化と質の向上につながるものと信じておりますが、一方では学部教育の成果の一指標と捉えられる歯科医師国

家試験の成績の良否が、社会や卒業生、そしてご父母の方々の大学に対する信頼と評価に影響し、それが受験生の増減となって



副学長 倉知 正和

現れるものと考えています。今後も現在の教育体制と教育内容を絶えず検証し、学生の学習意欲の向上と臨床能力の強化を図りながら、さらなる改革、改善とその確実な実行が必要であると思っています。

法学部、経営学部におきましても、本学建学の精神「国際未来社会で活躍する人材の育成」を具現化するために、さまざまな教育改革や朝日大学発信の多くの事業により“魅力ある大学”、“選ばれる大学”づくりに向けて、全教職員が絶え間のない努力をされていますし、その成果も随所に見受けられます。こうした成果は本学教職員全ての喜びですが、学生の資質が多様化している現状において、さらなる喜びを得るためにには様々な問題に直面することも十分に承知されています。しかしながら、止まることはできません。

大学を取り巻く厳しい環境の下、明るい未来を築くためには、本学の全教職員がこれまで以上に心を一つにして邁進していく必要があります。

皆様の絶大なるご協力とご尽力をお願い申し上げます。

謹賀新年

法学部長 経営学部長 歯学部長
(兼)法学研究科長 (兼)経営学研究科長 (兼)歯学研究科長
杉島 正秋 奥山 徹 田村 康夫 丸山 和美

留学生別科長
附属病院
院長
吉田 隆一
附属村上記念病院
院長
大橋 宏重
PDI岐阜歯科診療所
所長
藤原 周
事務局長
高橋 健茂

HOT TOPICS



瑞宝小綬章を受章

平成23年秋の叙勲において、三原憲三名誉教授（元法学部長・大学院法学研究科長）が「瑞宝小綬章」を受章した。

このたびの受章は、長年にわたる朝日大学での「教育研究功労」が高く評価されたものである。



三原 憲三 名誉教授

海外の歯学部学生を受け入れ

学術交流提携などを締結し相互学生交流を行っているメキシコ州立自治大学と中国第四軍医大学口腔医学院の学生や教員らが、短期海外研修のため来日。穂積キャンパスの歯学部や附属病院で最先端の歯科医療を学ぶと共に、昨夏それぞれの大学を訪れ研修を行った本学歯学部学生たちと岐阜市内や京都・大阪を訪れ日本文化を体験し交流を深めた。

教育長を表敬訪問

朝日大学での研修を終えた両大学の歯学部学生たちは、岐阜県庁や岐阜新聞社本社を表敬訪問。松川禮子岐阜県教育長などへ、日本や岐阜の印象、両国の歯科医療の現状、研修の成果などを報告した。

メキシコ州立自治大学との相互学生交流は1995年から、中国第四軍医大学とは2002年から行われており、今後も学生・教職員の相互交流が継続されることとなる。



メキシコ州立自治大学の学生たちが
松川教育長を表敬訪問

赤い羽根共同募金活動

法学部の防犯ボランティア団体「めぐる」が、赤い羽根共同募金活動に参加した。

JR岐阜駅に集合した「めぐる」の学生たちは、共同募金開始セレモニーに出席した後、県内各地から集ったボランティアのメンバーたちと岐阜駅歩行者デッキなどで、通行人などへ大きな声で募金への協力を呼びかけた。

「めぐる」の活動

2010年7月に、安全で安心して暮らせる地域社会の実現をめざし法学部学生を中心に設立された防犯ボランティア団体「めぐる」。瑞穂市役所、岐阜県警察本部や地域住民たちと協力し、「防犯教室」「青色回転灯装備車によるパトロール」「散歩レンジャー」などの活動を積極的に展開、日々地域社会の防犯意識の輪を広げている。また、同団体は警察庁主催の「若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業」にも参画している。

商業教育で高大連携講座

岐阜県内26校の商業高校などで組織される岐阜県商業教育研究会とマーケティング研究所が、「ヒットメーカーに学ぶ！-商品開発塾-」と「情報交換会」を穂積キャンパス6号館講義室で開催した。

同開発塾は、商業高校の新学習指導要領で「商品開発」「広告と販売促進」など実践的な授業科目が来年度から新設されることをうけ、高校教諭を対象に企業の商品開発や販売促進の成功事例などを研究する勉強会として開催されたもので、今後も継続開催が予定されている。

ヒットメーカーに学ぶ

今回講師を務めたのは、子供から大人までだれもが一度は口にし、その食感が忘れられないデザート飲料「ドロリッチ」を手がけたグリコ乳業（株）マーケティング部企画グループ長の有馬卓氏。同氏からは、あまりにも斬新すぎて社内での理解を得るのに苦慮した商品で今や超ヒット商品へと成長することとなった「ドロリッチ」の開発秘話が熱く語られた。

高校教諭や経営学部教員ら約30名が出席した勉強会（塾）では、参加者の研究や指導力の向上のみならず、将来的には、新設授業科目を通じた「地元ブランド商品開発者」の育成も視野に入れている。



有馬氏からドロリッチの開発秘話が明かされる

「FD教員研修会」開催

FD活動推進委員会（委員長：森下伊三男副学長）主催による「第11回FD教員研修会」が、穂積キャンパス6号館大講義室で開催された。

学生を変容させるには

本研修会は、授業方法や指導方法等の改善を通じて、魅力ある授業を学生に提供することを目的として毎年開催しているもので、今回は、大学間の連携協定に基づき三重大学高等教育創造開発センター（大学院生物資源学科准教授）の森尾吉成氏を講師として招聘。三重大学で導入されている「e-ポートフォリオによる学生の主体性を發揮させる取り組み」について講演が行われ、授業や診療を終えた教職員約150名が参加した。



森尾氏が三重大学の取り組みを解説

講演終了後には、学生を変容させる効果的な指導方法のあり方や先進的な取り組み等について活発な質疑応答が行われ、今後の授業改善に役立てたいと思う教員の真剣な姿が見られた。

朝日大学では、「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざし、今回開催された教員研修会のほか、授業理解度調査、相互授業参観、FDワークショップ、ランチタイムミーティングなどを実施している。

三重大学e-ポートフォリオ

オンライン上で学生がレポートなどの活動成果を収集・管理・振り返りができる、主体性を発揮し行動を起こす「きっかけ」を提供する三重大学独自のウェブシステム。

「税法の特別講義」開催

税を考える週間

法学部では、栗津明博教授がコーディネーターとなり岐阜北税務署長の安井秀樹氏を講師に迎え、「税金って何」と題した特別講義を穂積キャンパス5号館講義室で開催した。安井氏は、長年にわたり国税局調査部での大法人調査や国際課税などの職務経験を有する税務署長である。

この講義は、国税庁(国税局)の「税を考える週間(11月11日～17日)」の広報活動の一環として毎年行われており、本学での開催は今回で4回目となる。

税への関心が深まる

講義では、はじめに、童話のイソップ物語を題材に、「税は共同社会を維持するための会費」であることがわかりやすく解説された。その後、講師自身の職務経験を踏まえ国税局や税務署の仕事、納税の重要性について、アメリカ大リーグで活躍する松井選手やイチロー選手の納税についてなど具体的な事例を交え、講義が展開された。受講した約60名の学生たちは、初めて聞く税金の話題に興味深く熱心に聞き入っていた。

なお、今回コーディネーターを務めた栗津教授は、国税庁税務大学校副校長の経験を有する税法のエキスパートで、大学院法学研究科でも教鞭をとっている。



特別講義で「納税の意義」を学んだ

企業が求める人材とは

早期就職支援がスタート

法学部及び経営学部の1・2年生を対象とした「企業と人材」講演会が、穂積キャンパス6号館大講義室で開催された。同講演会は、文系学部の学生が入学時から4年後を見すえ「職業観」や「就職意識」を身につけることを目的に早期就職支援の一環として、毎年開催されている。

今回の講師には、大正元年に設立し総従業員13,000名を擁する地元(大垣市)の大手精密機械メーカーイビデン(株)の代表取締役会長を務める岩田義文氏を招聘。「会社人生を振り返って」と題した講演に、約600名の学生たちは、熱心に耳を傾け実社会で働く意義や社会人としての心構えなどを学んだ。

論理的な思考能力を

岩田氏は、グローバル化に対応する企業の現状を解説すると共に、自身の会社人生を振り返りつつ「高い目標を持ち続ける人物は必ず成長する。読書などを通じて論理的な思考能力を養おう」と学生たちに語りかけた。



ステージから岩田氏は学生たちに穏やかに語りかけた

歯科理工学会でダブル受賞

歯学部の亀水秀男講師(歯科理工学分野)と宇野光乗講師(歯科補綴学分野)が、第58回日本歯科理工学会(開催:奥羽大学)において「発表優秀賞」を受賞した。



過去にも本学教員の受賞例 ダブル受賞の亀水講師(左)と宇野講師はあるが、ダブル受賞の快挙は初めてとなる。両講師の今後の活躍が期待される。

発表優秀賞の研究テーマ

オキシアバタイトの合成と光触媒活性能 亀水秀男講師ほか
CAD/CAMにより製作したオールセラミッククラウンのsilver stainによる高靭化 宇野光乗講師ほか

瑞穂市商工会との連携

活気あるまちづくりの推進をめざしている瑞穂市商工会が、経営学部ビジネス企画学科と連携し「ネットショップ塾」を穂積キャンパス6号館パソコン教室で開催した。

「ネットビジネスで成功するために」と題した講演では、常川良史准教授(ビジネス企画学科)が講師を務め、ネットビジネス成功の秘訣やネットショップ運営のシステムなど具体的な解説を行った。

めざすはネットショップ開設

市内に店舗をかまえる企業や商店の担当者らは、近年商品販売の大きな潮流となっているネットビジネスの現状や未来について熱心に学んでいた。同塾(講習会)は今後も継続開催され、パソコンを使った実習を行ったり、ネットショップ開設に取り組んでいくこと。

日系企業で働くとは

穂積キャンパス5号館講義室で、経営学会主催の講演会が開催された。経営学部経営学科の加藤里美教授がコーディネーターを務めた講演会では、「日系企業で働くとはー通訳の仕事とはどのようなものかー」をテーマに、岐阜市に本社を置きレディース衣料で躍進を続けている(株)小島衣料のグループ企業で中国国内4社の社長を兼務する載慧氏が講演を行った。

積極的な姿勢が求められる

載氏は、日系企業における自身の通訳としての職務経験を通じ、「ただ単に通訳業務に従事するだけでは必要な人材として認められることはない。消極的な職務姿勢を改め、積極的に業務全般にわたり知識を吸収し仕事に活かしていくことで、はじめて求められる人材へと成長することができる」と語り、学生たちへ在学中に受動的な生活習慣を改め、主体的に取り組む姿勢を身につけることが大切であると解説した。

講演を受講した約50名の学生たちは、想像以上に奥の深い仕事である通訳という業種について、また、社会人として身につけるべき心得を学んだ。

「つながろう」をテーマに学園祭

「第41回朝日祭」が穂積キャンパスで3日間にわたり開催され、地元の方々をはじめ多くの来場者でにぎわった。

今回の朝日祭では、東日本大震災や紀伊半島を襲った台風12号などで被災した方々、地域社会の方々、そして友達や家族とのつながりや絆の大切さを改めて考える契機となればとの思いから「つながろう」がテーマに掲げられた。その思いは、沖縄県人会による「エイサー」の演舞でみごと心がひとつにつながった。



「エイサー」演舞を披露した沖縄県人会



「そらべあ」が掲げられた模擬店

また、穂積キャンパスには学園祭定番の模擬店、コンサート、bingo大会やゲームコーナーのほか、模擬地震体験、献血や各種防災展示コーナーが設けられると共に、東日本大震災義援金の募金活動も行われ、来場者たちは、それぞれ「つながり」の大切さを学んでいた。

エコキャンパスにミナモが登場

2009年5月から「エコキャンパスプロジェクト」を展開している朝日大学では、今回も風力発電など自然エネルギーを使った電力の利用や、コンサートなどの室内催事をすべて屋外で行うなど、環境保護や地球温暖化防止にも努めた。

また、本年開催となる「ぎふ清流国体」のマスコットキャラクター、ミナモが朝日祭に登場し岐阜国体をPR。多くの人がミナモの周りを取り囲み、あつという間に会場の人気者に。さらにミナモは学友会表彰式やbingo大会のサポート役としても大活躍した。



ミナモが「ぎふ清流国体」をPR

日本卓球リーグ

体育会卓球部(女子)は、2007年度から日本卓球リーグに加盟、現在1部リーグで大学チームとして活躍している。

このたび「2011年度後期リーグ」ホームマッチゲームが、穂積キャンパス体育館において同リーグ3位の強豪チーム「中国電力」を迎えて開催された。

大歓声の中でプレー

試合当日は、国内トップレベルの対戦をこの目で見ようと地元小中学生をはじめ学外からも数多くのサポーター(観戦者)が訪れ、ポイントが入るたびに感嘆の声やチア応援の歓声で大いに盛り上がり、試合会場は終始熱気につつまれた。



穂積キャンパスでホームマッチゲームを開催

試合は、朝日大学が1ゲーム奪取するものの実力に勝る中国電力が勝利。卓球部(女子)は、その後リーグ戦(広島市)を戦いリーグ8位となり、来季前期リーグは2部からの再スタートとなる。

また、男子チームは、2部リーグにおいて経験豊かな実業団チームを相手に6位の成績を収めた。



全国初 災害時の連携協定締結

岐阜県と朝日大学をはじめとする岐阜県内26校の高等教育機関との間で、全国初となる「災害時等の大学等高等教育機関による支援協力に関する協定」が締結された。

この協定は、東日本大震災をきっかけに近年たびたび発生する大規模災害に備え、広大な校地や学生・教職員の豊富な人材を防災や災害対策に活かすことで、教育機関と地域社会とがより一層の連携を深めていくことをねらいに締結された。県と教育機関による包括的な協定締結は全国初のこと。今後、毎年度当初に連絡会議が開催され、災害時にスムーズに連携できるよう協定内容の確認や見直しが行われる。

朝日大学では、広大な穂積キャンパスの活用や学生・教職員の人的対応に積極的に取り組むことで、これまで以上に地域社会との連携をはかっていくこととなる。

施設設備の提供

被災者の一時収容施設、支援物資等の集積施設、災害ボランティアセンター施設、支援活動車両の駐車場、防災ヘリコプターの離着陸場

人的な協力支援

避難所ボランティアの派遣、通訳ボランティアの派遣、ボランティアセンターの設置・運営、被災者相談センターの設置・運営、災害・防災ボランティア活動への参加

地域と観光の未来

岐阜県観光交流推進局との連携

岐阜県総合企画部観光交流推進局長の古田菜穂子氏を講師に迎えた「産業情報研究所研究会」が、穂積キャンパス6号館講義室で開催された。岐阜県観光交流推進局との連携をはかることで、県の観光と地域振興に貢献できればと同研究所では、2011年度研究プロジェクトの一環として「地域と観光の未来」のテーマに取り組んでいる。

感動資源を観光資源へ

「岐阜再発見～感動資源を観光資源へ～」と題した講演で古田氏は、これまで県内に散在する感動資源、すなわち魅力的な地域の宝の「原石」を発掘・研磨し、観光資源化がなされてきたが、この取り組みは、助言者(促進者)である県と、主体者の地域社会との信頼協力関係が構築され、はじめて「原石(感動資源)」が持続性のある「本物の宝(観光資源)」として輝くこととなると語った。

近年、観光に対する関心が高いことを反映し、会場となった講義室には、約50名の教員・学生が集い、質疑応答もさかんに交わされ実りある研究会となつた。

ラグビー「東海学生」を連覇

東海学生ラグビーリーグ

体育会ラグビー部は、「東海学生ラグビーフットボールリーグ戦」において連覇を達成した。

1次リーグを一位通過したラグビー部は、決勝リーグでは堅いディフェンスとカウンター攻撃を持ち味に、古豪の中京大学や名城大学を撃破し、「東海学生連覇」の栄冠を手中に収めた。



NHK岐阜放送局の取材を受けるラグビー部

その後、環太平洋大学(岡山県)との東海北陸・中国四国代表決定戦を制した吉川充監督(本学職員)からは、「山城主将を中心に一つにまとまつた選手たちの気持ちが勝利へと導いた。来シーズンは、必ずや関西の強豪を倒し全国大会出場をはたす」との力強いメッセージが寄せられた。

「山口国体」で入賞ラッシュ

「ぎふ清流国体」に弾み

「おいでませ山口国体(第66回国民体育大会)」で、本学体育会の選手たちが大活躍し、本年開催の「ぎふ清流国体」に向け弾みをつけた。

フェンシング

男子フルーレ	3位入賞	早川 貴之 選手	(情報管理4年:神奈川)
	4位入賞	菊池 竜也 選手	(法4年:熊本)
男子エペ	4位入賞	菊池 竜也 選手	(法4年:熊本)
	6位入賞	白鳥 俊貴 選手	(経営1年:長野)
女子フルーレ	7位入賞	伊藤 真実 選手	(法4年:宮城)
	8位入賞	吉田 彩子 選手	(ビジネス企画2年:香川)
女子サーブル	6位入賞	吉田 彩子 選手	(ビジネス企画2年:香川)
	8位入賞	伊藤 真実 選手	(法4年:宮城)

自転車競技

4km速度競走	優勝	矢野 智哉 選手	(ビジネス企画1年:岐阜)
1kmタイムトライアル	準優勝	山本 琢也 選手	(ビジネス企画2年:岡山)
ケイリン	8位入賞	尾形 鉄馬 選手	(ビジネス企画4年:宮城)
チームスプリント	3位入賞	沼田 明久 選手	(ビジネス企画1年:山梨)
4km団体追抜競走	準優勝	矢野 智哉 選手	(ビジネス企画1年:岐阜)
	4位入賞	山本 琢也 選手	(ビジネス企画2年:岡山)
	7位入賞	今西 薫 選手	(ビジネス企画3年:鳥取)

ボウリング

男子団体(2人チーム)	4位入賞	安里 秀策 選手	(ビジネス企画2年:岐阜)
		高橋 俊彦 コーチ	(昭和コンクリート工業:岐阜)
男子団体(4人チーム)	7位入賞	安里 秀策 選手	(ビジネス企画2年:岐阜)
		高橋 俊彦 コーチ	(昭和コンクリート工業:岐阜)
女子個人	4位入賞	竹川ひかる 選手	(ビジネス企画2年:岐阜)
女子団体(2人チーム)	3位入賞	竹川ひかる 選手	(ビジネス企画2年:岐阜)

()内は所属学科と代表県

全国トップレベルの競技力

また、OB選手の活躍もめざましく、フェンシング競技では、伊藤祐樹選手(2007年度卒:大垣信用金庫)が「男子エペ団体」準優勝、「男子フルーレ団体」5位入賞を、陸上競歩では、棄原一菜選手(2010年度卒:岐阜陸協)が「女子1,000m」6位入賞をはたし、体育会の選手やOBたちは各県の代表選手として堂々の活躍をみせた。

相撲 全国女子相撲選手権3位入賞

「第16回全国女子相撲選手権大会」で、山元佳美選手(ビジネス企画1年:岐阜)が軽量級で3位入賞。



SPORTS

フェンシング

全日本インカレ三種目制覇

「第61回関西学生フェンシング選手権(京都府大山崎町体育館)」において、7種目制覇(個人:女子フルーレ・サーブル・エペ、団体:男子サーブル、女子フルーレ・サーブル・エペ)を成し遂げた体育会フェンシング部は、駒沢オリンピック公園球技場(東京都)で開催された「2011全日本学生フェンシング選手権」に出席。女子サーブル団体、女子エペ(団体・個人)の3種目でみごと優勝に輝いた。

「ロンドンオリンピック」をめざせ

大会では、他大学から徹底的にマークされるなか、そのプレッシャーをものともせず、サーブル団体決勝で日本大学を破り2連覇、エペ団体は法政大学に勝利し3年連続4度目の全日本インカレ優勝の喜びを報告。優勝を、エペ個人では福田美香子選手(ビジネス企画4年:秋田)が2連覇をはたし、朝日大学勢として3年連続で4人目の栄冠に輝いた。その他、女子サーブル個人で古川知世選手(法4年:佐賀)が準優勝、田村紀佳選手(ビジネス企画2年:群馬)が3位入賞、女子フルーレ団体3位入賞の好成績を収めた。また、北京オリンピックで活躍した太田雄貴選手が定めたMVPには福田選手が選ばれた。



「ロンドンオリンピック」に向けた体育会フェンシング部のさらなる飛躍が期待される。

自転車競技

「全日本選手権」制覇

国内最高峰の大会で活躍



大会新記録で優勝した4km団体追抜競走

(平均時速55.57km)で「4km団体追抜競走」優勝に輝いた。同選手は本年度「全日本アマチュア選手権」及び「全国都道府県対抗競技大会」でも同種目岐阜県チームの優勝に貢献すると共に、山口国体「4km速度競走」で優勝するなど、1年生ながら4つのビッグタイトルを獲得したことになる。

また、矢野選手は同全日本選手権「4km個人追抜競走」でもみごと3位入賞をはたしており、若きエースが朝日大学の競技力の高さを示した。

NEWS



附属村上記念の新病院長決まる

理事会は、2011年12月末をもって退職した安藤隆歯学部附属村上記念病院長の後任に大橋宏重教授（総合医科学講座内科学分野）を選任した。これは12月15日に開催された理事会で朝日大学病院長等選任規程に基づいて行われたもの。同日開催された職員協議会「ながら会」懇親会において、宮田侑理事長から新旧院長の紹介があり、両氏の固い握手に会場は大きな拍手に包まれた。大橋院長は「地域の中核拠点病院としての責務を自覚し、住民の健康増進のため全力をあげていきたい」と抱負を語った。

大橋院長の略歴

1945年神奈川県生まれ。岐阜大学医学部卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。同大学医学部講師を経て1984年から岐阜県立岐阜病院。2006年同病院副院長（同病院は2007年に岐阜県総合医療センターに名称変更）。2011年4月村上記念病院着任。専門は腎臓内科。



ながら会で理事長から紹介

「思い」を英語で主張

新たな門出を祝福

「第27回高等学校英語弁論大会」（後援：岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞、NHK岐阜放送局）が、穂積キャンパス5号館講義室で開催された。

27回目を迎えた本大会へは、県内外24の高等学校から41名の応募があり、厳正なる一次審査を通過した岐阜県、愛知県、滋賀県、沖縄県など各県から24名の生徒が出場し、ジェスチャーやユーモアを交えたスピーチを披露した。

スピーチ能力は年々レベルアップ

審査では、発音やアクセントだけではなく、スピーチ内容や表現力等が総合的に評価され、その結果、「The Equality Of Animal's Lives」を発表した田口杏莉さん（滋賀県立国際情報高等学校）が「最優秀賞」の栄冠に輝いた。



受賞者たちが笑顔で記念撮影

本弁論大会で長年運営に携わる審査員たちからは、「スピーチ能力や表現力が年々レベルアップしており、発表が楽しみである」との声が聞かれた。

英語教育研究セミナーを開催

英語教育のさらなる発展を

朝日大学の建学の精神である「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」の理念のもと、英語教育に携わる関係者との連携をはかると共に、教育手法の向上と英語教育のさらなる発展をめざす「英語教育研究セミナー」が穂積キャンパス5号館講義室で開催された。



寺本氏による講演「アメリカ民主主義の底流」
寺本氏による講演「アメリカ民主主義の底流」

今回で3回目の開催となる同セミナーでは、大友克之学長からの開会挨拶後、中日新聞社会部部次長の寺本政司氏から「アメリカ民主主義の底流」と題し、ニューヨーク特派員時代の著名人へのインタビュー経験談を交え、アメリカ社会の根底に流れる民主主義や教育の現状など幅広い領域にわたる講演が行われた。約150名の参加者たちはタイムリーな講演内容に真剣なまなざしで聞き入っていた。



レセプションに参加した高校生たち

セミナー終了後には、会場を6号館ホールに移しウエルカムレセプションを開催。和やかな雰囲気のなかで、参加者たちは日頃の英語教育に関する悩み、今後の英語教育のあり方などについて質疑応答や活発な情報交換を行った。

国際交流の集い

相互理解・親睦が深まる

学部・大学院や留学生別科日本語研修課程で学ぶ外国人留学生、教職員らが参加した「朝日大学国際交流の集い」が、大垣フォーラムホテル（大垣市）で開催され、約200名が相互の理解や親睦を深めた。



この集いは、本学国際交流委員会が毎年開催している行事。今回も立食による懇談・懇親が行われ、留学生と教職員たちが笑顔で談笑し交流を深めた。また、恒例となったプレゼント抽選会では、bingoゲームで学長賞をゲット、大友学長と記念撮影当選者が発表されるたびに大きな歓声や拍手がわき起こり、会場内の雰囲気を一層盛り上げていた。

国際交流の架け橋となれ

留学生たちが朝日大学での充実したキャンパスライフを送り、将来、日本や世界との架け橋となる人材に育つことを期待する。